

『自己を見つめる／自画像 SELF PORTRAIT』

土佐女子高等学校  
土方 佐代香

### 学校紹介

来年、創立110周年を迎える土佐女子中学高等学校は、高知県においても歴史ある女子学校で、中学高校一貫の教育をとおして、健康な身体と洗練された知性をもつ情操豊かな女性の育成を教育目標としています。



### 学校の特徴

本校の特色としては、教育目標である「健康な身体」や「洗練された知性」、「豊かな情操」と合わせ、「何事にも積極的にとりくむ明朗な女性の育成」として、勉学に励むだけでなく、学校行事や部活動も積極的に行っています。



また、「広い視野と穏やかな態度をもつ聡明な女性の育成」の一環として、場面に応じた美しい立ち居振る舞いや作法の体得として、中学1年次には、礼法の時間があります。礼法で習得したことの実践として、華道、茶道の基本的な所作を学ぶ授業もあります。そして、授業開始前には、瞑想を行っています。授業に取り組む前に、気持ちを鎮めて学習の姿勢を整えることは、集中力を高めることにつながっています。

また、本校では生徒の学習活動のまとまりであるクラスを、担任の名とともに、“〇〇ホーム”と呼んでいます。これは、クラスごとのまとまりを高め、学校全体が暖かくまとまっていこうとする、土佐女子の長い歴史の中で培われてきた習慣です。

長年受け継がれてきた伝統と暖かさを守りながら、新しいことにも挑戦していく、それが本校の特色であるように思います。

### 本校の美術(授業)についての特色

土佐女子高等学校では、1年次2単位、2年次2単位、3年次3単位の系7単位の美術の授業が行われています。授業は選択制であり、高校3年間を通して美術の授業を選択する割合は比較的に

少ないように思われます。

また、本校の美術(授業)の大きな特色と考えられるのは、高校3年次において3単位の授業が行われるということです。選択者に美術系の進路の学生もおり、充実した授業時間が持てるといえます。

平成23年度 土佐女子高等学校 美術(授業)年間計画

高Ⅰ(2単位)		高Ⅱ(2単位)		高Ⅲ(3単位)	
1 学 期	① 教科書模写 ② 土佐和紙 はがき絵 ③ 鑑賞	1 学 期	① デッサン i.立方体 ii.静物 ② 構想画	1 学 期	① 自画像 ② 仮面制作
2 ・ 3 学 期	① カレンダー デザイン (カッティング画) ② 木彫小箱	2 ・ 3 学 期	① パッケージ デザイン ② 木材工芸 スプーン・ フォーク	2 学 期	① 卒業制作展 ポスター デザイン (エッチング) ③ ランプ制作
				3 学 期	① 卒業制作展 設営・展示等

## 『自己を見つめる/自画像 SELF PORTRAIT』

**対象学年** : 高校3年生(美術選択生) 20名

**所有時間** : 15時間

**題材設定理由(コンセプト)** : 高校生活の締めくくりの学年である高校3年の1学期に、自画像を課題としたのは、高校3年生の自分をしっかり見つめ、向き合うことを目的としています。高校3年次は、今までの学校生活を振り返る年であると同時に、これからの進路を決定する時期でもあります。そのような時期に、“自己を見つめる”という課題である自画像制作を行うことは、生徒の学習過程においても意義のあることであると考えます。

課題の条件としては、①自分だとわかるように描くこと、②本校(土佐女子高等学校)の制服を着ていることの2点を掲げ、それ以外のことに関しては特に規定をせず、それぞれの生徒の個性がより発揮され易いようにして制作を行います。

**準備物** : [教員] 鉛筆(6B、4B、2B、B、HB)、鏡、  
キャンバス画用紙(一人当たり1枚)、消しゴム、練ゴム、  
コピー用紙(A4,一人当たり3枚)、クロッキー用紙(B4,一人当たり1枚)、色鉛筆、  
水性マーカー、クリップ(一人当たり2個)、画板(一人当たり1枚)  
[生徒] アクリル絵の具、水彩絵の具、インクなどの自分が使用する描画材料

## 手順:

### ① アイデアスケッチ I

課題文を載せた下書きプリント(A4)を配布し、鏡を見て自分の顔を見つめながら、アイデアスケッチを行います。どのようなポーズで描くのか、何の画材を用いて描くのか、構図などのアイデアを出し、スケッチします。(図A, B, C)



図A



図B



図C

### ② クロッキーによる人物描写の演習

ほとんどの生徒が、人物の描写に苦手意識があるように感じられます。解決方法として、約1時間程度のクロッキーの時間を設けることにしました。交代制でモデルを選出し、友達をクロッキー(速写)することで、人物描写に慣れるとともに、人体構造の理解に着目させ、またより客観的に自分を見つめ、捉えることにつながることを目指します。



図D

### ③ 自分の顔のスケッチ

アイデアスケッチとは別に、各自、自分の顔をスケッチします。目、鼻、口のバランスなど、本番(キャンバス画用紙)での描写の完成度をあげることに役立っています。(図D)

### ④ アイデアスケッチ II

クロッキー、自分の顔のスケッチを役立てて、初めのアイデアを見直すと同時に、もう一度アイデアを練り直します。

### ⑤ キャンバス画用紙(下書き)

アイデアスケッチに基づいて、キャンバス画用紙に下書きをしていきます。使用画材や着彩の絵の具の種類によって、鉛筆の濃度や色鉛筆など、下書きの画材も変えて行います。また、下書きがない場合は、そのまま本番の表現を行います。

### ⑥ キャンバス画用紙(着彩)

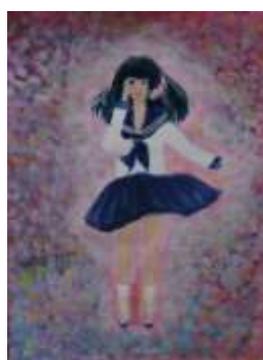
下書きを基に、彩色していきます。ただ色を塗るだけではなく、絵の具を使って描写をしていく意識を大切に、制作を進めます。また、絵の具は使わず、鉛筆やインクのみで描く生徒も、より完成

度を上げるためにはどうしたらよいか、キャンバス画用紙にうっすら色を付けるなど、各自創意工夫し、作品完成を目指します。

(制作風景)



(完成作品)



まとめ(コメント):

自画像は、導入時にほとんどの生徒が苦手意識を持っていました。鏡の中の自分の顔を、じっと見つめるという行為に抵抗感を抱くようです。しかし、完成が近くなると、ほぼ全員が満足そうな表情になっていたことが印象的でした。



自画像は、自分と向き合い、見つめることを通して、それをただ忠実に描写することにも十分意味があるとは思いますが、今回のように、それぞれの生徒が考えた表現(描写)方法を徹底してこだわり、行うことで、作品作りの達成感を味わうとともに、自己理解をより深めることにもつながったのではないかと思います。